

IBM SPSS Amos コンカレント・ライセンス
管理者ガイド



目次

第 1 章管理者ガイド	1
開始する前に.....	1
ゴースト表示.....	1
Citrix およびターミナル・サービス.....	1
コンカレント・ライセンス・マネージャーのインストール.....	1
ライセンス・マネージャーのアップグレード.....	2
Windows でのライセンス・マネージャーとツールのインストール.....	3
Windows 以外のシステムでのライセンス・マネージャーのインストール.....	3
macOS でのライセンス・マネージャーのインストール.....	3
ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターのインストール.....	4
製品のライセンス取得.....	4
仮想環境でのライセンスのインストール.....	4
ライセンス認証ウィザードの使用 (Windows のみ).....	6
コマンド・プロンプトからのライセンスのインストール.....	6
一時使用のために有効にする.....	8
ライセンスの追加.....	9
ライセンスの表示.....	9
ライセンス・マネージャーのテスト.....	9
ローカル・デスクトップ・コンピューターでの製品のインストール.....	9
Windows コンピューターへのインストールのプッシュ.....	10
コンカレント・ライセンスの管理.....	13
WlmAdmin アプリケーションの起動.....	13
サーバーの追加.....	13
ログ情報の取得.....	14
ライセンスに関する詳細の表示.....	14
冗長ライセンス・サーバーのセットアップ.....	14
コンピューター・ライセンスの構成.....	16
ライセンス予約ファイルの構成.....	17
ライセンス・マネージャーの開始と停止.....	18
ライセンス・マネージャーとツールのアンインストール.....	19
ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターのアンインストール.....	19
デスクトップ・コンピューターのトラブルシューティング.....	19
サービスとサポート.....	20

第 1 章 管理者ガイド

以下の説明は、並行ライセンス IBM®SPSS® Amos のライセンス・タイプ 30 を使用しているサイトの管理者向けです。このライセンスにより、任意の数のコンピューターに IBMSPSS Amos をインストールできます。ただし、アプリケーションを同時に実行できるユーザーの数は、購入したライセンスのユーザー数に制限されます。

開始する前に

認証コードが必要です。認証コードにより、コンカレント・ライセンス・マネージャーのライセンスを取得できるようになります。**コンカレント・ライセンス・マネージャー**はコンカレント・ライセンスを管理し、エンド・ユーザーがを使用できるようにします。

認証コードの取得方法に関する別個の指示を受け取っていると思います。認証コードが見つからない場合は、にアクセスして、カスタマー・サービスに連絡してください。

コンカレント・ライセンスが正しく設定されていることを確認するには、以下の手順を実行します。

1. **コンカレント・ライセンス・マネージャーをインストールします。** コンカレント・ライセンス・マネージャーは、コンカレント・ライセンスをエンド・ユーザーに提供するユーティリティーです。ネットワーク内の任意のコンピューターにライセンス・マネージャーをインストールすることができます。通常は、デスクトップ・コンピューターから接続できるサーバーにインストールします。詳しくは、[1 ページの『コンカレント・ライセンス・マネージャーのインストール』](#)のトピックを参照してください。
2. **製品のライセンスを交付します。** この操作により、ライセンスの提供に必要な情報がライセンス・マネージャーに渡されます。
3. **コンカレント・ライセンス・マネージャーをテストします。** ライセンス・マネージャーをテストして、ライセンスが正しく提供されることを確認する必要があります。詳しくは、[9 ページの『ライセンス・マネージャーのテスト』](#)のトピックを参照してください。
4. **ローカルのデスクトップ・コンピューターにをインストールします。** 管理者またはエンド・ユーザーが、デスクトップ・コンピューター上でフルインストールを実行します。インストール時に、エンド・ユーザーは、ライセンス・マネージャーを実行するコンピューターを指定することができます。エンド・ユーザーがを起動しようとすると、製品がライセンス・マネージャーと通信してライセンスを取得します。ライセンスが有効な場合は、が起動します。詳しくは、[9 ページの『ローカル・デスクトップ・コンピューターでの製品のインストール』](#)のトピックを参照してください。

このインストールでは管理手順は必要ありませんが、問題が発生した場合は [13 ページの『コンカレント・ライセンスの管理』](#)を参照してください。

ゴースト表示

ソフトウェアをゴースト化するには、ライセンス・マネージャーをインストールし、ゴースト化イメージの作成に使用するローカル・デスクトップに製品をインストールします。必要に応じて他のコンピューターもゴースト化します。

Citrix およびターミナル・サービス

Citrix サーバーまたはターミナル・サービス・サーバー上でアプリケーションをインストールして公開するには、他の Windows アプリケーションの場合と同じ手順を実行します。

コンカレント・ライセンス・マネージャーのインストール

エンド・ユーザーがデスクトップ・コンピューターにをインストールする前に、コンカレント・ライセンス・マネージャーをインストールする必要があります。このユーティリティーは、継続的に実行されるサービスまたはデーモンで、通常ネットワーク上の 1 台のコンピューターにインストールします。(複数のコンピューターにインストールすることもできます。その場合、冗長なライセンス・マネージャーを設定す

ることになります。詳しくは、[14 ページの『冗長ライセンス・サーバーのセットアップ』](#)のトピックを参照してください。) コンカレント ライセンス マネージャーは、エンド ユーザーのデスクトップ コンピュータにはインストールしません。

エンド・ユーザーが、コンカレント・ライセンスが許可された IBM SPSS アプリケーションを開始するたびに、アプリケーションはライセンス・マネージャーに対してライセンスを要求します。ソフトウェアを同時に使用できるエンド・ユーザーの数は購入したライセンスによって決まり、このユーティリティーが提供するライセンスはその数に限定されます。この数に達すると、それ以降のライセンス要求は拒否されます。エンド・ユーザーが頻繁にライセンスを拒否されていることに気付いた場合は、営業担当者に連絡して、より多くのユーザーの同時使用が可能なライセンスを購入できます。

ライセンス・マネージャーは eImage としてダウンロードできます。

注: ライセンス・マネージャーは、アクティブなエンド・ユーザー・セッションの数と各セッションに関する情報をログ・ファイルに記録します。このログ・ファイルは、接続上の問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳しくは、[14 ページの『ログ情報の取得』](#)のトピックを参照してください。

複数のオペレーティング・システム

コンカレント・ライセンス・マネージャーを実行するプラットフォームと、クライアントを実行するプラットフォームを一致させる必要はありません。例えば、Linux のライセンス・マネージャーは、Windows のクライアントにライセンスを提供することができます。

ライセンス・マネージャーの管理

ライセンス・マネージャーを管理するにはライセンス・マネージャー・アドミニストレーターを使用します。これを使用できるのは Windows のみです。したがって、ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターをインストールするために少なくとも 1 台の Windows マシンが必要です。

システム要件

コンカレント ライセンス マネージャーをインストールするコンピュータは、オペレーティングシステムの最小要件を満たしていなければなりません。ライセンス マネージャーでは、サーバー クラスのマシンは必要ありません。

重要: ライセンス マネージャーがインストールされているコンピュータ上でファイアウォールを実行している場合は、UDP 用にポート 5093 を開く必要があります。そうしないと、クライアント・コンピュータはライセンス・マネージャーからライセンスを取得できません。さらに、冗長ライセンス マネージャー マシンを使用する場合、ライセンス マネージャー マシンが互いに通信できるように、UDP 用にポート 5099 を開く必要があります。

ライセンス・マネージャーのアップグレード

以前のバージョンのライセンス・マネージャーがインストールされている場合は、以下の手順を実行する必要があります。

1. 古いライセンス・マネージャーがインストールされているディレクトリーに移動します。
2. `lservrc` ファイルをコピーします。
3. `lservrc` ファイルを安全な場所に保存します。
4. コミューター・ライセンスをチェックアウトしたユーザーがいる場合、それらのユーザーが再度ライセンスをチェックインするようにします。チェックアウトされたライセンスのリストの取得については、[16 ページの『コミューター・ライセンスの構成』](#)のトピックを参照してください。
5. ライセンス・マネージャーをシャットダウンします。詳しくは、トピック「[18 ページの『ライセンス・マネージャーの開始と停止』](#)」を参照してください。
6. 古いライセンス・マネージャーをアンインストールします。詳しくは、トピック「[19 ページの『ライセンス・マネージャーとツールのアンインストール』](#)」を参照してください。
7. 新しいライセンス・マネージャーをインストールします。Windows へのインストールについては、[3 ページの『Windows でのライセンス・マネージャーとツールのインストール』](#)のトピックを参照してく

ださい。UNIX/Linux へのインストールについては、[3 ページの『Windows 以外のシステムでのライセンス・マネージャーのインストール』](#)のトピックを参照してください。macOS へのインストールについては、[3 ページの『macOS でのライセンス・マネージャーのインストール』](#)のトピックを参照してください。

8. 保存しておいた `lservrc` ファイルを、新しいライセンス マネージャーをインストールしたディレクトリにコピーします。Windows でデフォルトの場所を受け入れた場合は、`C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT` フォルダーを確認します。

Windows でのライセンス・マネージャーとツールのインストール

注: インストーラーを管理者として起動する必要があります。インストーラー・ファイルの起動を促されたら、ファイルを右クリックして「**管理者として実行**」を選択します。

1. ライセンス・マネージャーを実行するネットワーク・コンピューターのドブド/シーディー ドライブに、コンカレント・ライセンス・ツールの ドブド/シーディー を挿入します。ドブド/シーディー から、ご使用の Windows オペレーティング・システムに対応するライセンス・マネージャーおよびツールが格納されているアーカイブをコピーします。
- または -
eImage ファイルをダウンロードした場合は、WinZip などのアーカイブ・ユーティリティーを使用して、該当する eImage のすべてのファイルを解凍します。
2. ライセンス・マネージャーおよびツールが格納されているアーカイブの内容を解凍します。
3. 解凍したディレクトリーから `setup.exe` を実行し、画面に表示される指示に従います。
4. ライセンス・マネージャーをリモートで管理する場合、別の Windows マシンにライセンス・マネージャー・アドミニストレーターとツールをインストールするという選択肢もあります。

Windows 以外のシステムでのライセンス・マネージャーのインストール

1. ライセンス・マネージャーを実行するネットワーク・コンピューターの ドブド/シーディー ドライブに、コンカレント・ライセンス・ツールの ドブド/シーディー を挿入します。ご使用のオペレーティング・システムに対応するライセンス・マネージャーおよびツールが格納されているアーカイブを探します。
- または -
eImage ファイルをダウンロードした場合は、ファイルをダウンロードした場所に移動します。
2. eImage ファイルをダウンロードした場所に移動します。
3. ライセンス・マネージャーおよびツールが格納されているアーカイブの内容を、ライセンス・マネージャーをインストールする場所に解凍します。
4. Windows マシンにライセンス・マネージャー・アドミニストレーターをインストールします。詳しくは、[3 ページの『Windows でのライセンス・マネージャーとツールのインストール』](#)のトピックを参照してください。
5. ライセンス・マネージャーの開始については、[18 ページの『ライセンス・マネージャーの開始と停止』](#)を参照してください。

macOS でのライセンス・マネージャーのインストール

1. ライセンス・マネージャーを実行するネットワーク・コンピューターの ドブド/シーディー ドライブに、コンカレント・ライセンス・ツールの ドブド/シーディー を挿入します。ご使用のオペレーティング・システムに対応するライセンス・マネージャーおよびツールが格納されているアーカイブを探します。
- または -
eImage ファイルをダウンロードした場合は、ファイルをダウンロードした場所に移動します。
2. ライセンス・マネージャーおよびツールが格納されているアーカイブの内容を、ライセンス・マネージャーをインストールする場所に解凍します。

3. Windows マシンにライセンス・マネージャー・アドミニストレーターをインストールします。詳しくは、[3 ページの『Windows でのライセンス・マネージャーとツールのインストール』](#)のトピックを参照してください。
4. ライセンス・マネージャーの開始については、[18 ページの『ライセンス・マネージャーの開始と停止』](#)を参照してください。

ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターのインストール

Windows 専用のライセンス・マネージャー・アドミニストレーターを使用して、ライセンス・マネージャーを管理します。Windows 以外のマシンにライセンス・マネージャーをインストールした場合、ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターは Windows マシンにインストールする必要があります。

1. ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターを実行する Windows ネットワーク・コンピューターのドブド/シーディードライブに、コンカレント・ライセンス・ツールのドブド/シーディーを挿入します。ドブド/シーディーから、ライセンス・マネージャーおよびツールが格納されているアーカイブをコピーします。
 - または -
 - eImage ファイルをダウンロードした場合は、WinZip などのアーカイブ・ユーティリティを使用し、該当する eImage のすべてのファイルを解凍します。
2. ライセンス・マネージャーおよびツールが格納されているアーカイブの内容を解凍します。
3. 解凍した tools ディレクトリーから setup.exe を実行し、画面に表示される指示に従います。

製品のライセンス取得

Windows の場合は、インストールの主要部分が完了したら、「終了」をクリックして、ライセンス認証ウィザードを起動します。ライセンス認証ウィザードを使用して、IBMSPSS Amos のライセンスを取得できます。その他のオペレーティング・システムの場合は、ライセンス・マネージャーをインストールした後で、コマンド・プロンプトからライセンスをインストールする必要があります。

今すぐにライセンスを取得しない場合は、IBMSPSS Amos を一時使用期間中にユーザー数を限定して使用することを有効にできます。一時使用期間 (製品の初回使用時から開始します) が完了すると、IBMSPSS Amos は実行できなくなります。そのため、できるだけ早くライセンスを取得することをお勧めします。IBMSPSS Amos を使用するには、ライセンスを取得するか、一時的使用を有効にすることが必要です。

注: ライセンスは、ネットワーク・コンピューターの物理ハードウェアまたは仮想ハードウェアに**ロック・コード**によって関連付けられます。ネットワーク・コンピューターまたはそのハードウェアを置き換えると、ロック・コードが新しくなるため、営業担当者に連絡して新規認証コードを入手する必要があります。仮想マシンにインストールしている場合、再始動時に変更されないロックコードを選択する必要があります。詳しくは、[4 ページの『仮想環境でのライセンスのインストール』](#)を参照してください。

重要: ライセンスは時刻の変更を感知します。システム時刻の変更が必要になり、製品を実行できなくなった場合は、にアクセスし、カスタマー・サービス・チームに支援を求めてください。

仮想環境でのライセンスのインストール

コンカレント ライセンス マネージャーを仮想環境にインストールした場合、ライセンス交付に関して特別な手順があります。仮想マシンでは、ハードウェアは仮想であり、ライセンス マネージャーをライセンスに関連付けるロックコードは、仮想マシンの再始動時に変更される可能性があります。ライセンス マネージャーが正しく動作するようにするために、仮想マシンの再始動時に変更されないロックコードを見つける必要があります。安定したロックコードを見つけたら、それを使用してライセンス マネージャーにライセンスを交付します。

重要:

リブート時に変更されるロックコードを選択すると、ライセンス マネージャーは動作しなくなります。IBM SPSS アプリケーションはライセンスを取得できなくなり、起動に失敗します。

ロックコードの確認

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. 以下のディレクトリに移動します。
 - Windows インストール時にデフォルトの場所を受け入れた場合、ライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリは C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT です。
 - その他プラットフォームの場合。ライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリ。
3. コマンド・プロンプトで、echoid (Windows の場合) または ./echoid64 (その他のプラットフォームの場合) と入力します。

以下のような出力が表示されます。

Locking Code 1 : 4-12A1B

ハイフン (-) の直前に表示される番号がロックコード基準です。ロックコード基準は、ロックコードに使用される仮想ハードウェアを表す番号です (この例では 4 であり、これは OS ボリューム通し番号 ID を表します)。ハイフンの後ろの番号は、ロックコード自身です (この例では 12A1B)。

ロックコード基準は以下の値になる可能性があります。

ロックコード基準	仮想ハードウェア
2	IP address
4	OS ボリューム通し番号 ID
8	ホスト名
10	イーサネットカード

ロックコードが安定的であることの確認

1. ロックコードを確認したら、仮想マシンを再始動します。
2. ロックコードを再度確認します (5 ページの『[ロックコードの確認](#)』を参照)。
 - ロックコードが**変わらない場合**、リブートしてさらに数回確認します。ロックコードが安定している場合、ライセンス交付を行えます (6 ページの『[新しいロックコードによるライセンスマネージャーへのライセンス交付](#)』を参照)。
 - ロックコードが**変わる場合**、ロックコードを更新する必要があります (5 ページの『[ロックコードの更新](#)』を参照)。

ロックコードの更新

1. テキストエディターで echoid.dat を開きます。このファイルは以下のディレクトリにあります。
 - **Windows:** インストール時にデフォルトの場所を受け入れた場合、ライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリは C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT です。
 - **その他プラットフォームの場合。** ライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリ。
2. 現在のロックコード基準を表す単一の 16 進数が見つかります。この番号を、許容可能な 16 進形式のロックコード基準のいずれかに変更します。

16 進法のロックコード基準	仮想ハードウェア
0x002	IP address
0x004	OS ボリューム通し番号 ID

16 進法のロック コード基準	仮想ハードウェア
0x008	ホスト名
0x010	イーサネット カード

新しいロック コードによるライセンス マネージャーへのライセンス交付

安定したロック コードを見つけてそのコードに更新したら、仮想環境に固有のライセンス交付の手順はこれ以上ありません。コマンド プロンプトを使用して、ライセンスのインストールを完了してください。

ライセンス認証ウィザードの使用 (Windows のみ)

注: 管理者の資格情報の入力を求めるプロンプトが出される場合があります。正しい資格情報がないと、ライセンス認証ウィザードを実行することはできません。

1. インストール中にライセンス認証ウィザードを起動しなかった場合や、ライセンス取得前にライセンス認証ウィザードをキャンセルした場合は、ライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリーにある *law.exe* を実行して、ウィザードを起動することができます。管理者として実行する必要があります。*law.exe* を右クリックして、「**管理者として実行**」を選択します。
2. プロンプトが出されたら、「**すぐ製品にライセンスを適用する**」を選択します。代わりに一時的な使用を有効にする場合は、を参照してください。
3. プロンプトが表示されたら、1 つ以上の認証コードを入力してください。

認証コードの取得方法に関する別個の指示を受け取っていると思います。認証コードが見つからない場合は、にアクセスして、カスタマー・サービスに連絡してください。

ライセンス認証ウィザードから、認証コードがインターネット経由で IBM 会社 に送信され、ライセンスを自動的に取得します。ご使用のコンピューターがプロキシの背後にある場合は、「**プロキシを設定**」をクリックし、適切な設定を入力してください。

認証プロセスが失敗した場合、E メール・メッセージの送信を求められます。E メール・メッセージを送信するのに、デスクトップの E メール・プログラムを使用するか、または Web ベースの E メール・アプリケーションを使用するかを選択します。

- デスクトップを選択した場合、適切な情報で新しいメッセージが自動的に作成されます。
- Web ベースのアプリケーションを選択した場合、まず Web ベースの E メール・プログラムで新しいメッセージを作成する必要があります。次に、ライセンス認証ウィザードからメッセージ・テキストをコピーし、E メール・アプリケーションに貼り付けます。

E メール・メッセージを送信し、ライセンス認証ウィザードのプロンプトに応答します。E メール・メッセージは、即座に処理されます。「**ライセンス・コードを入力**」をクリックすると、受信したライセンス・コードを入力できます。既にライセンス認証ウィザードを閉じている場合、ウィザードを再起動して「**すぐ製品にライセンスを適用する**」を選択します。「**コードを入力**」パネルで、受信したライセンス・コードを追加し、「**次へ**」をクリックしてプロセスを完了します。

コマンド・プロンプトからのライセンスのインストール

コマンド・プロンプトからライセンスをインストールするには、2 つの方法があります。1 つは、*licenseactivator* を使用してインターネットから自動的にライセンスを取得する方法で、もう 1 つは、*echoid* を使用して手動でライセンスを取得する方法です。

licenseactivator を使用したライセンスの自動インストール

ライセンスをインストールするコンピューターはインターネットに接続されていることが必要です。接続されていない場合は、手動でライセンスをインストールしてください。詳しくは、トピック「[8 ページの『ライセンスの手動インストール』](#)」を参照してください。

1. ライセンス・マネージャーをインストールしたユーザーとしてログインします。

2. コマンド・プロンプトを開き、ディレクトリーをライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリーに変更します。これは、ライセンス・マネージャーをインストールしたディレクトリーであり、IBMPSS Amos をインストールしたディレクトリーではありません。Windows でデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT フォルダーを確認します。
3. 通常は認証コードが与えられています。最も簡単な場合は、コマンド・プロンプトで次のように入力します。コマンド・プロンプトの使用方法的詳細は、この後の説明を参照してください。

```
licenseactivator <auth-code>
```

ここで、<auth-code> は認証コードです。

ライセンスが正常に追加されたことを示すメッセージが表示されます。このメッセージが表示されない場合は、エラー・コードを確認し、手動でライセンスをインストールしてみてください。詳しくは、トピック「[8 ページの『ライセンスの手動インストール』](#)」を参照してください。

licenseactivator を使用すると、商品のライセンスが交付され、*licenseactivator* のディレクトリーにログ・ファイルが書き込まれます。このログ・ファイルの名前は、*licenseactivator_<month>_<day>_<year>.log* になります。エラーが発生した場合は、ログ・ファイルで詳細を確認できます。IBM 会社にサポートを依頼する場合にも、この情報が役に立ちます。

認証コードでの *licenseactivator* の使用

licenseactivator は、通常、製品の購入時に受け取った 1 つ以上の認証コードとともに使用します。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
licenseactivator authcode1[:authcode2:...:authcodeN] [PROXYHOST=proxy-hostname] [PROXYPORT=proxy-port-number]  
[PROXYUSER=proxy-userid] [PROXYPASS=proxy-password]
```

注: macOS で作業するときは、*./licenseactivator* を使用します。

- 複数の認証コードを指定する場合は、コロン (:) で区切ります。
- プロキシ設定は任意ですが、プロキシ経由でコンピューターを使用している場合は、プロキシ設定が必要になることがあります。必要なプロキシ設定は、固有のプロキシ構成によって異なります。すべてのプロキシ設定が必要になることがあります。

PROXYHOST

プロキシ・ホストのサーバー名または IP アドレス

PROXYPORT

プロキシ経由でインターネットに接続するためのポート番号

PROXYUSER

プロキシのユーザー ID (必要な場合)

PROXYPASS

ユーザー ID に関連付けられたパスワード (必要な場合)

ライセンス・コードでの *licenseactivator* の使用

In less common scenarios, IBM 会社 may have sent you a *license*.

```
licenseactivator licenscode[:licenscode2:...:licenscodeN]
```

注: macOS で作業するときは、*./licenseactivator* を使用します。

- ライセンス・コードが複数ある場合はコロン (:) で区切ります。
- ライセンス・コードを使用する場合、*licenseactivator* はインターネットには接続しないため、プロキシ情報を指定する必要はありません。

macOS 固有の *licenseactivator* 機能

macOS システムでの *licenseactivator* の実行に固有の機能と設定は次のとおりです。

ネットワーク・ライセンスの設定

ネットワーク・ライセンスの設定を次の例に示します。

```
./licenseactivator LSHOST= COMMUTE_MAX_LIFE=7
```

activation.properties ファイル経由でのライセンス交付

activation.properties ファイルを使用した製品へのライセンス交付を次の例に示します。

```
./licenseactivator -f activation.properties
```

activation.properties ファイルのテンプレートは、<installation directory>/Resources/Activation に用意されています。

注: 端末ウィンドウに ./licenseactivator --help と入力して、licenseactivator オプションの全リストを表示します。

ライセンスの手動インストール

1. ライセンス・マネージャーをインストールしたユーザーとしてログインします。
2. コマンド・プロンプトを開き、ディレクトリーをライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリーに変更します。これは、ライセンス・マネージャーをインストールしたディレクトリーであり、IBMSPSS Amos をインストールしたディレクトリーではありません。Windows でデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT フォルダーを確認します。
3. サーバー・マシンのロック・コードを取得します。コマンド・プロンプトで、echoid (Windows の場合) または ./echoid64 (その他のプラットフォームの場合) と入力します。
4. IBM お客様サポート (<https://www.ibm.com/mysupport>) に連絡して、IBM 会社 にロック・コードを認証コードを送信してください。IBM 会社 はそれに応じてライセンス・コードを提供するか、ライセンス・コードを記載したファイルを送ります。
5. licenseactivator を使用して、ライセンス・コードを入力します。

一時使用のために有効にする

ライセンスをインストールしなかった場合でも、一時的に使用する目的で IBMSPSS Amos を有効にすることができます。

1. 物理的なインストール・メディアを使用する場合、ドブド/シーディーがドブド/シーディードライブに挿入されていることを確認します。eImage をダウンロードした場合は、eImage を開くか、内容を抽出します (または、開いて内容を抽出します)。
2. WlmAdmin アプリケーションを開始します。詳しくは、トピック「[13 ページの『WlmAdmin アプリケーションの起動』](#)」を参照してください。
3. WlmAdmin アプリケーションの左ペインで、「サブネット・サーバー」の横にある「+」記号をクリックします。ライセンス・マネージャー・サーバーがリスト表示されない場合は、編集メニューで「定義済みサーバーのリスト」を選択してコンピューターを指定してください。
4. ライセンス・マネージャーが稼働しているネットワーク・コンピューターの名前を右クリックして、以下の項目を選択します。

「機能を追加」>「ファイルから」>「サーバーとそのファイルへ」

注: 「サーバーとそのファイルへ」ではなく「サーバーへ」を選択すると、一時使用の情報がメモリーに保管されます。ネットワーク・コンピューターを再起動すると、この情報は消失します。

5. 「開く」ダイアログ・ボックスで、D:\Windows\Administration\Licensing\NetworkLicenseManager\lservrc.temp と入力します。ここで、D はインストール・ディスク・ドライブです。D 以外のディスク・ドライブを使用する場合は、適切なドライブの場所を入力してください。eImage をダウンロードした場合は、<eImage>\Administration\Licensing\NetworkLicenseManager\lservrc.temp と入力します。ここで、<eImage> は、eImage ファイルを開いた/解凍した場所です。

6. ライセンスが表示されたら「**OK**」をクリックします。ライセンスの詳細を表示する方法については、[14 ページの『ライセンスに関する詳細の表示』](#)を参照してください。

ライセンスの追加

後でライセンスを追加することができます。ライセンスを追加するプロセスは、元のライセンスをインストールするプロセスと同じです。

ライセンスの表示

WlmAdmin アプリケーションでコンカレント・ライセンス (ユーザー数を含む) を表示できます。

WlmAdmin アプリケーションおよびライセンスの表示の詳細は、[13 ページの『コンカレント・ライセンスの管理』](#)を参照してください。

ライセンス・マネージャーのテスト

ライセンス・マネージャーが適切にライセンスを提供していることを確認するために、ライセンス・マネージャーをテストする必要があります。

1. 別のマシンにライセンス マネージャー アドミニストレータをインストールしていない場合、テスト対象のライセンス マネージャーを実行していない Windows マシンにライセンス マネージャー アドミニストレータをインストールします。詳しくは、[3 ページの『Windows でのライセンス・マネージャーとツールのインストール』](#)のトピックを参照してください。
2. WlmAdmin アプリケーションを起動します。詳しくは、[13 ページの『WlmAdmin アプリケーションの起動』](#)のトピックを参照してください。
3. テストするリモート・ライセンス・マネージャー・サーバーを追加します。詳しくは、[13 ページの『サーバーの追加』](#)のトピックを参照してください。
4. リモート・サーバーのライセンスを表示します。詳しくは、[14 ページの『ライセンスに関する詳細の表示』](#)のトピックを参照してください。

ライセンスを表示できる場合、ライセンス・マネージャーはローカル・デスクトップ・コンピューターと接続する準備ができています。ローカル・デスクトップ・コンピューターに製品をインストールする手順に進むことができます。ライセンスが表示されない場合、前の手順を見直して、ライセンス・マネージャーが正しくインストールされていることを確認してください。

ローカル・デスクトップ・コンピューターでの製品のインストール

エンド・ユーザーのコンピューターにローカルで製品のフルインストールを行うには、2つの方法があります。各コンピューターに手動でインストールすることも、システム管理サーバー (SMS) などのアプリケーションを使用して、Windows を実行しているコンピューターにインストールをプッシュすることもできます。

ローカル・デスクトップでの手動インストール

1. **インストール・メディアを用意します。** 製品の eImage をダウンロードし、共有ネットワーク・ドライブにファイルを解凍します。物理インストール・メディアがある場合、ドブド/シーディーのコピーを必要な数だけ作成するか、メディアを共有ネットワーク・ドライブに置きます。
2. **インストール手順書をコピーし、ライセンスに関する情報を準備します。** 製品のインストール手順書のコピーを必要な数だけ作成します。インストールの手順は、ダウンロード・サイト または、物理インストール・メディアを入手した場合は、ドブド/シーディーのディレクトリーから入手できます。ライセンスの種類に対応する指示に従います。インストール後に、エンド・ユーザーは、コンカレント・ライセンス・マネージャーを実行しているネットワーク・コンピューターの IP アドレスまたは名前を入力する必要があります。手順書をコピーする前に、手順書の冒頭に用意されているスペースにこの情報を入力します。
3. **インストールに必要なものをエンド・ユーザーに配布します。** ダウンロード済みファイル (またはネットワーク上の場所、またはインストール ドブド/シーディー)、インストール手順書、およびライセンス情報を、各コンピューターに手動でインストールできるエンド・ユーザーに必要なに応じて配布します。

Windows が稼働しているローカル・デスクトップへのプッシュ

IBMSPSS Amos のインストールは Microsoft Windows インストーラー (MSI) との互換性があるため、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターにインストールをプッシュできます。

Windows コンピューターへのインストールのプッシュ

インストールのプッシュとは、ソフトウェアを任意の人数のエンド・ユーザーに、ユーザーの介入なしにリモートで配布する手法です。の完全インストールをエンド・ユーザーの Windows が稼働するデスクトップ・コンピューターにプッシュできます。インストールのプッシュに使用するテクノロジーでは、MSI エンジン 3.0 以上がサポートされている必要があります。

前のバージョンの上書き

前のバージョンの がインストールされているのと同じディレクトリーにプッシュする場合、インストーラーは既存のインストール環境を上書きします。オプションで、インストールのプッシュ時にアンインストールをプッシュできます。詳しくは、[12 ページの『アンインストールのプッシュ』](#)のトピックを参照してください。

プッシュ・インストールのプロパティー

プッシュ・インストールに使用できるプロパティーには、以下のものがあります。すべてのプロパティーは大文字小文字を区別します。値に空白文字が含まれている場合は、その値を引用符で囲む必要があります。

表 1. プッシュ・インストールのプロパティー			
プロパティー	説明	有効な値	デフォルト (該当する場合のみ)
INSTALLDIR	IBMSPSS Amos のインストール先となる、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューター上のディレクトリー。このプロパティーはオプションです。このプロパティーを指定しなかった場合のデフォルトは C:◆Program FilesIBMSPSSAMOS です。	C:\Amos などの有効なパス。	C:◆Program FilesIBMSPSSAMOS
LSHOST	コンカレント・ライセンス・マネージャーが稼働している 1 台以上のネットワーク・コンピューターの IP アドレスまたは名前。	1 つ以上の有効な IP アドレスまたはネットワーク・コンピューター名。複数のアドレスや名前を指定する場合は、ティルドで区切ります (例: server1~server2~server3)。	
COMMUTE_MAX_LIFE	エンド・ユーザーがコンピューター・ライセンスをチェックアウトできる最大日数。詳しくは、 16 ページの『コンピューター・ライセンスの構成』 のトピックを参照してください。	1 から 30 までの数値。	7

表 1. プッシュ・インストールのプロパティ (続き)			
プロパティ	説明	有効な値	デフォルト (該当する場合のみ)
ENABLE_CONNECTIONS	インターネット接続機能 (情報の共有、エラー・レポート、およびウェルカム画面の更新) を有効または無効にします。	YES または NO	

MSI ファイル

IBM SPSS Statistics.msi ファイルは、ダウンロードした eImage を解凍したコンテンツの Windows\SPSSStatistics\ ディレクトリにあります。

コマンド・ラインの例

製品のインストールのプッシュに使用できるコマンド・ラインの例を以下に示します。すべてのテキストを 1 行で入力してください。

```
MsiExec.exe /i "IBM SPSS Statistics.msi" /qn /L*v logfile.txt
INSTALLDIR="C:\Amos" LSHOST="mylicserver"
```

SMS を使用したインストールのプッシュ

システム管理サーバー (SMS) を使用して をプッシュする基本ステップは、以下のとおりです。

1. 本ソフトウェアをダウンロードしたら、まず eImage の内容を解凍してから、Windows\Amos ディレクトリの下に該当するサブディレクトリを、ネットワーク・コンピューター上のディレクトリにコピーする必要があります。
2. コピーされたディレクトリ内の .sms ファイルを編集します。テキスト・エディターを使用して適切なプロパティを追加することにより、**CommandLine** の値を変更してください。使用可能なプロパティのリストについては、10 ページの『プッシュ・インストールのプロパティ』を参照してください。コマンド・ラインで適切な MSI ファイルを指定してください。
3. .sms ファイルからパッケージを作成し、そのパッケージをエンド・ユーザーのデスクトップ・マシンに配信します。

グループ・ポリシーまたは関連技術を使用したインストールのプッシュ

1. ソフトウェアをダウンロードしたら、まず eImage のコンテンツを解凍し、Windows\Amos ディレクトリの下位にある該当するサブディレクトリを、ネットワーク・コンピューター上のディレクトリにコピーします。
2. ORCA などのアプリケーションを使用して、コピーしたフォルダー配下の適切な IBM スポス アモス 30.msi ファイルでプロパティ・テーブルを編集します。ORCA は、Windows 2003 Server SDK に付属しています。<http://www.microsoft.com/downloads> にアクセスして、「SDK」で検索してください。プロパティ・テーブルに追加できるプロパティのリストについては、10 ページの『プッシュ・インストールのプロパティ』を参照してください。必ず、正しい MSI ファイルを使用してください。
3. 編集済みの IBM スポス アモス 30.msi ファイルを使用してパッケージを作成し、このパッケージをエンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターに配布します。

英語以外のシステムにインストールをプッシュする

追加の指定をすることなく、英語以外のシステムにインストールをプッシュすることができます。ただし、インストーラーの言語 (対話インストールをプッシュする場合)、ユーザー・インターフェース、ヘルプはすべて英語で表示されます。ユーザーは、インストール後にユーザー・インターフェースの言語を変更できますが、ローカライズされたヘルプは使用できません。

TRANSFORMS プロパティを使用して、ドブド/シーディー またはダウンロードした eImage に含まれているいずれかの MST ファイルを指定することができます。MST ファイルを使用すると、インストーラー、ユーザー・インターフェース、ヘルプを、指定の言語で表示することができます。IBMSPSS Amos をダウンロードした場合、MST ファイルは使用できません。その場合ユーザーは、ローカライズされたヘルプの言語パックを手動でインストールし、製品のユーザー・インターフェース言語を手動で変更する必要があります。

TRANSFORMS プロパティは *MsiExec.exe* のパラメーターです。以下の例では、TRANSFORMS プロパティを使用して、フランス語のインストールをプッシュしています。この場合、インストーラーとユーザー・インターフェースがフランス語で表示され、フランス語のヘルプがインストールされます (ヘルプの言語を **HELPCHOICE** プロパティでオーバーライドすることもできます。詳しくは、10 ページの『プッシュ・インストールのプロパティ』のトピックを参照してください。) すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
MsiExec.exe /i "IBM スポス アモス 30 .msi" /qn /L*v logfile.txt
INSTALLDIR="C:\Amos" LSHOST="mylicserver" TRANSFORMS=1036.mst
```

以下の言語 MST ファイルは、の Windows\Amos ドブド/シーディー ディレクトリーに格納されています。eImage をダウンロードした場合、これらのファイルは抽出された eImage ファイルのルート・ディレクトリーに格納されています。

表 2. 言語用 MST ファイル	
言語	MST ファイル
英語	1033.mst
日本語	1041.mst

アンインストールのプッシュ

注: アンインストール・コマンドをプッシュすると、エンド・ユーザーによるカスタマイズが失われます。特定のユーザーについてカスタマイズが必要な場合は、それらのユーザーを配布対象から除外して、製品を手動でインストールするように依頼してください。

新しいバージョンの IBMSPSS Amos のインストールをプッシュする場合、最初にアンインストールを行うことをお勧めします。これは、解凍した extracted ファイルに含まれている **push_uninstall.bat** ファイルを使用してサイレントに実行できます。

次の表に、これまでのリリースのアンインストール ID をリストします。

表 3. IBMSPSS Amos のアンインストール ID	
バージョン	アンインストール ID
28.*	{5643F9D3-6B6B-439A-A8D1-66C0D363B553}
27.*	{5714B6D0-2C14-49BB-B560-25CB36AE2AF3}
26.*	{C31442F6-4B76-4022-9822-7F60F3EA70D8}
25.*	{28C51A52-9B61-4589-91DE-8C5FAEA00B10}
24.*	{A24026D3-0E0B-49F1-8FC8-65E254EB421F}
23.*	{2B603859-DCA2-45DD-92DF-98542E78BAA8}
22.*	{DEB57287-C937-4DE9-939A-5ED3AB8F052D}
21.*	{304B71E3-1017-4717-86BC-F1D18519FEF2}
20.*	{58C50F5A-B7E2-4149-8911-B14CEC825F57}
19.*	{B132EFD2-BF03-48AA-8EC8-404E4C5199C5}
18.*	{65D9DA69-4C22-46CA-B762-A338CAC94599}

表 3. IBMSPSS Amos のアンインストール ID (続き)	
バージョン	アンインストール ID
17.*	{9DB2E18E-2A1F-4D65-A258-9CB446903C3E}
16.*	{4DA782CB-C9A0-462F-9D18-17D301BC507C}

コンカレント・ライセンスの管理

ライセンス・マネージャーは、コンカレント・ライセンスを管理します。ライセンス・マネージャー自体を管理し、ライセンス・マネージャーで管理されているコンカレント・ライセンスに関する情報を表示するには、ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターの主要なユーザー・インターフェースである WlmAdmin アプリケーションを使用します。ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターは、コンカレント・ライセンス・マネージャーとともに Windows にインストールされます。Windows 以外のマシンまたは Windows のリモート・マシンでライセンス・マネージャーを管理する場合は、個別の Windows マシンにライセンス・マネージャー・アドミニストレーターをインストールしてください。詳しくは、トピック「[3 ページの『Windows でのライセンス・マネージャーとツールのインストール』](#)」を参照してください。

注：追加の管理情報が必要な場合は、SafeNet の資料を参照してください。この資料は、ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターとともにインストールされます。この資料は、ライセンス・マネージャー管理インストール・ディレクトリーの `help\Content` ディレクトリー (例えば、`C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT`) にあります。

WlmAdmin アプリケーションの起動

Windows の「スタート」メニューで、以下の項目を選択します。

「すべてのプログラム」 > 「IBM > SPSS License Tools > <version> > SentinelRMS Server Administration」

サーバーの追加

ライセンス・マネージャーを管理するには、ライセンス・マネージャーのサーバーを WlmAdmin アプリケーションに追加しておく必要があります。サーバーを追加するには、2 つの方法があります。

手動によるサーバーの追加

1. WlmAdmin アプリケーション・メニューで、以下の項目を選択します。
「編集」 > 「定義済みサーバーのリスト」
2. 「定義済みサーバーのリスト」ダイアログで、ライセンス・マネージャーが稼働しているサーバーの名前または IP アドレスを入力します。
3. 「追加 (Add)」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。

以上の操作により、WlmAdmin アプリケーションの左ペインの定義済みサーバーのリストにサーバーが表示されます。

サブネット上のサーバーのリストの表示

1. WlmAdmin アプリケーションの左ペインで、「サブネット・サーバー」の横にある「+」記号をクリックします。

サブネット上のライセンス・マネージャー・サーバーのリストが表示されます。この方法で特定のサーバーが見つからない場合は、上記のようにサーバーを手動で追加する必要があります。

ログ情報の取得

エンド・ユーザーがライセンスをチェックアウトできない場合、ログ・ファイルに役立つ情報が記録されていることがあります。LSERVOPTS 環境変数と `-f <trace-log-file>` と `-l<usage-log-file>` オプションを使用して、ログファイルの作成を指定できます。この環境変数とそのオプションについて詳しくは、ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターのインストール・ディレクトリーの *Content* ディレクトリーにある SafeNet の資料を参照してください。

ライセンスに関する詳細の表示

手動で、またはライセンス認証ウィザードを使用して追加したライセンスに関する詳細を表示できます。

1. WlmAdmin アプリケーションの左側のペインで、ライセンス・マネージャー・サーバーの横の **+** 記号をクリックして、ライセンスを表示します。
2. ライセンスの名前をクリックします。右側のペインに、ライセンスに関する詳細が表示されます。ライセンスを識別するためにコードが使用されています。コードの最初の部分は機能を示します。2 番目の部分はバージョンを示します。

機能コードに関連付けられた名前の確認

1. コマンド・プロンプトを使用して、ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターがインストールされているディレクトリーに移動します。
2. `lmshowlic <server>` (Windows) または `./lmshowlic <server>` (その他のオペレーティング・システム) を入力します。ここでの `<server>` は、ライセンス・マネージャーが実行されているサーバーの名前または IP アドレスです。

サーバーで使用可能なすべての機能が、製品別およびバージョン別にグループ化されてリストに出力されます。

冗長ライセンス・サーバーのセットアップ

同じユーザー群をサポートする複数の冗長ライセンス・サーバーを設定することができます。冗長サーバーにより、サーバーのクラッシュ時に発生する可能性がある中断を防ぐことができます。1 台目のサーバーがクラッシュしても、別の冗長サーバーによってライセンスの管理を引き継ぐことができます。

冗長機能を有効にするには、以下の手順で説明するように、特殊なライセンス・コードが必要になります。冗長ライセンス・キーの作成やライセンスに関する他の問題について支援が必要な場合は、[IBM SPSS License Key Center](#) にアクセスしてください。

3 台以上で奇数台のライセンス・サーバーがあり、かつその過半数が同時に稼働している必要があります。例えば、冗長ライセンス・サーバーが 3 台ある場合は、そのうち 2 台が稼働している必要があります。

各冗長ライセンス・サーバーの準備

1. ライセンス・マネージャーをインストールします。詳しくは、トピック「[1 ページの『コンカレント・ライセンス・マネージャーのインストール』](#)」を参照してください。
2. コマンド・プロンプトを使用して、ライセンス・マネージャーをインストールしたディレクトリーに移動します。
3. 各サーバー・マシンのロック・コードを取得します。コマンド・プロンプトで、`echoid` (Windows) または `./echoid64` (その他のオペレーティング・システム) と入力します。
4. ロック・コードをメモしておきます。このロック・コードは次のステップで必要になります。
5. 冗長ライセンス・サーバーごとにこの手順を繰り返します。

冗長ライセンスのアクティブ化

1. IBM SPSS ライセンス・キー・センター (<https://spss.subscribenet.com/control/ibmp/login>) にアクセスします。

2. 並行認証コードを作成します。
3. 並行認証コードを作成したらそのコードをクリックし、「**ロック・コード**」のフィールドが表示されるまでスクロールダウンします。これで、複数のロック・コードをライセンス・キーに追加できるようになります。
4. 上記ステップのロック・コードを使用して、該当するフィールドにロック・コードを入力します。
5. 「送信」をクリックします。

冗長ライセンス・サーバー・プールのセットアップ

1. ライセンス・マネージャーがいずれかの冗長ライセンス・サーバー上で稼働している場合は、各コンピューターでライセンス・サーバーを停止します。
2. WlmAdmin アプリケーション・メニューで、以下の項目を選択します。
「編集」 >> 「冗長ライセンス・ファイル」
この操作により、WrlfTool アプリケーションが開きます。
3. WrlfTool アプリケーション・メニューで、以下の項目を選択します。
「ファイル」 >> 「新規」
4. 冗長ライセンス・サーバーごとに「追加」をクリックして、各サーバーのホスト名と IP アドレスを指定します。
5. サーバーの順序を変更して、冗長ライセンス・サーバーの使用順序を指定します。リストの先頭のサーバーが 1 次サーバーになります。
6. 「**ライセンスの追加**」をクリックして、カスタマー・サービスまたは最寄りの営業所から受け取ったライセンスを追加します。複数のライセンスを受け取った場合は、必ずすべてのライセンスを追加してください。
7. 「OK」をクリックします。
8. 操作が終了したら、「完了」をクリックします。

冗長ライセンス・ファイルの保存

1. WrlfTool アプリケーション・メニューで、以下の項目を選択します。
ファイル > 別名で保存する
2. 冗長ライセンス・ファイル (*lservrlf*) を、アクセスしやすい場所に保存します。このファイルは、次のステップでコピーする必要があります。

冗長ライセンス・サーバーの構成

1. 冗長ライセンス・ファイル (*lservrlf*) を Windows のライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリにコピーします。デフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT フォルダを確認します。その他のオペレーティング・システムの場合は、ファイルをライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリに直接コピーします。3 台以上の冗長ライセンス・サーバーが必要です。
2. それぞれの冗長ライセンス・サーバーでライセンス・マネージャーを開始します。

エンド・ユーザー・コンピューターの構成

エンド・ユーザーが製品をインストールする場合は、エンド・ユーザーがサーバー名または IP アドレスをフィールドで区切って (例: *server1~server2~server3*)、すべての冗長サーバーを指定します。これにより、セットアップ・プログラムは、必要な設定情報をエンド・ユーザーのコンピューターに追加します。デスクトップ・コンピューターに製品が既にインストールされている場合は、以下の手順を手動で実行して、構成情報を追加することができます。また、アンインストールをプッシュしてから、すべてのサーバーを定義する新規インストールを実行することもできます。インストールのプッシュについては、[10 ページの『Windows コンピューターへのインストールのプッシュ』](#)を参照してください。

1. テキスト・エディターを使用して `commutelicense.ini` を開きます。Windows では、このファイルはデスクトップ・コンピューター上の商品インストール・ディレクトリーにあります。
2. DAEMONHOST の値を、ティルド (~) で区切られたサーバー名または IP アドレスに変更します。以下に例を示します。

```
DAEMONHOST=server1-server2-server3
```

3. `commutelicense.ini` を保存します。

コンピューター・ライセンスの構成

コンピューター・ライセンスでは、エンド・ユーザーはライセンス・マネージャーからライセンスを確認することができます。これにより、ネットワークに未接続のときにライセンスを使用できます。Windows では、コンピューター・ライセンスはデフォルトでは有効になっていません。その他のオペレーティング・システムではデフォルトで使用可能です。コンピューター・ライセンスを実際にチェックアウトするための手順は、エンド・ユーザーのインストール手順に記載されています。

ライセンス・マネージャー・サーバーを利用して外部からアクセスすることを許可するライセンス数の割合を制限することができます。すべてのライセンス (トークン) がコンピューターに使われてしまうことを避けるために、コンピューター・ライセンスを制限することをお勧めします。外勤者が使用しているライセンス数が指定の割合に達すると、コンピューター・ライセンスが期限切れになるまで、または再度チェックインされるまで、それ以上のライセンスを使用できなくなります。エンド・ユーザーがライセンスをチェックアウトできる最大期間を構成することもできます。最大期間のデフォルトは 7 日間です。

重要: コンピューター・ライセンスで冗長ライセンス・サーバーを使用している場合、コンピューター・ライセンスのチェックアウトおよびチェックインは 1 次ライセンス・サーバーのみで実行できます。1 次ライセンス・サーバーが稼働していない場合、エンド・ユーザーはライセンスのチェックアウトおよびチェックインを実行できません。

使用可能なコンピューター・ライセンスの割合の設定

1. ライセンス・マネージャー・サーバー上に LSERVOPTS 環境変数を作成します。この変数は、Windows ではライセンス・マネージャーのインストール中に作成されます。そのため、この手順を実行する必要があるのは Windows 以外のオペレーティング・システムの場合のみです。
2. LSERVOPTS 環境変数の値を編集して、`- com<percentage>` を組み込みます。ここでの `<percentage>` は 0 から 100 までの数値であり、コンピューティングに使用できるライセンスの割合を示します。0 を指定すると、コンピューター・ライセンスは使用不可になります。Windows では、このスイッチはデフォルトで含まれていて、0 に設定されています。
3. ライセンス・マネージャーを実行しているコンピューターを再始動します。

コンピューター・ライセンスの最大期間の設定

ユーザーがコンピューター・ライセンスを確認できる最大の時間は、デスクトップコンピューターの `commutelicense.ini` ファイルの `CommuterMaxLife` 設定で指定されます。Windows の場合、`commutelicense.ini` は、デスクトップ・コンピューターの製品インストール・ディレクトリーに格納されています。Windows と macOS の場合、`commutelicense.ini` を開き、`CommuterMaxLife` を探します。このオプションの値を、エンド・ユーザーがコンピューター・ライセンスをチェックアウトできる最大日数に設定します。これは 1 から 30 までの数値でなければなりません。また、インストールをプッシュするときにこの値を設定することもできます。詳しくは、[10 ページの『Windows コンピューターへのインストールのプッシュ』](#)を参照してください。

注: この機能は時間単位ではなく日単位で作用します。例えば、`CommuterMaxLife` オプションを 1 日に設定し、その後で午前 9 時にライセンスをチェックアウトすると、そのライセンスは翌日夜の午前 0 時までチェックインされません。したがって、`CommuterMaxLife` が 1 日に設定されていても、ライセンスは実際には 39 時間保持されます。

コマンド・ラインによるチェックアウトしたライセンスのリスト取得

どのユーザーがライセンスをチェックアウトしたかを確認することができます。

1. コマンド・プロンプトを使用して、ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターがインストールされているディレクトリーに移動します。
2. `lsmon <server>` (Windows) または `./lsmon64 <server>` (その他のオペレーティング・システム) を入力します。ここでの `<server>` は、ライセンス・マネージャーが実行されているサーバーの名前または IP アドレスです。ローカル・ホスト・サーバーについてのみチェックアウトしたライセンスを表示する場合は、ライセンス・サーバー名を省略できます。

WlmAdmin アプリケーションによるチェックアウトしたライセンスのリスト取得

チェックアウトしたライセンスは、次のように WlmAdmin アプリケーションで表示することもできます。

1. WlmAdmin アプリケーションの左側のペインで、ライセンス・マネージャー・サーバーの横にある **+** 記号をクリックします。
2. 「クライアント」の横にある **+** 記号をクリックします。コンカレント・ライセンスを使用しているクライアントがリストされます。いずれのクライアントもリストされない場合、コンカレント・ライセンスを使用しているユーザーはいません。
3. 特定のクライアントを選択して、クライアントがライセンスをチェックアウトしたかどうかを表示します。選択後に、右側のペインの「詳細情報」領域を確認します。

ライセンス予約ファイルの構成

特定のユーザーやユーザー・グループ用に予約するライセンス数を指定するファイルとして、予約ファイルを作成することができます。各ユーザーは、ネットワーク ID またはコンピューター名 (IP アドレスではないことに注意) で識別されます。例えば、パワー・ユーザーのグループ用のライセンスを予約するための予約ファイルを設定することができます。これにより、これらのユーザーに対してライセンスが常に使用可能になります。また、予約を使用して、特定のユーザーをライセンスにアクセスできないように設定することもできます。

新しい予約ファイルの作成

1. WlmAdmin アプリケーション・メニューで、以下の項目を選択します。

編集 > 予約ファイル

この操作により、Wlsgrmgr アプリケーションが開きます。

2. Wlsgrmgr アプリケーション・メニューで、「ファイル」 > 「新規」を選択します。

ライセンスとユーザーの予約ファイルへの追加

1. Wlsgrmgr アプリケーション・メニューから、以下の項目を選択します。

機能の > 追加

2. ウィザードの最初の画面で「次へ」をクリックします。
3. 予約したいライセンスに関連付けられた機能コードを指定します。ライセンスに関連付けられた機能コードを取得する方法については、14 ページの『[ライセンスに関する詳細の表示](#)』を参照してください。また、WlmAdmin アプリケーションに表示されるとおりに入力される特定のバージョン (例えば、160) も定義します。バージョンはオプションではありません。キャパシティー・ライセンスはサポートされていないため、キャパシティー・コントロールは無視してください。
4. 次へをクリックします。
5. ユーザー・グループの名前を指定します。名前は任意ですが、記述的にする必要があります (例えば、Sales)。
6. グループ用に予約するライセンスの数を指定します。グループ・メンバーは、引き続きすべてのライセンスにアクセスできますが、グループ外のユーザーは、ここで指定する数のライセンスを使用できなく

なります。例えば、10 個のライセンスがあり、そのうちの 5 個を予約すると、グループのメンバーは引き続き 10 個のライセンスを使用できますが、他のユーザーは 5 個しか使用できなくなります。

7. 「メンバー」ウィンドウで「追加」をクリックして、グループに関連するユーザー名またはコンピューター名を指定します (IP アドレスは指定しないでください)。ユーザーやマシンをグループに組み込むと、そのユーザーやマシンは予約されたライセンスを使用できるようになります。ユーザーやマシンをグループから除外すると、そのユーザーやマシンは、予約されたライセンスにはいっさいアクセスできなくなります。必要なユーザーやマシンをすべて指定してください。各グループは、相互に排他的でなければならないことに注意してください。そのため、同じライセンスに対する異なるグループに、共通のユーザーやコンピューターを含めることはできません。
8. すべてのユーザーをグループに追加したら、「終了」をクリックします。
9. 必要に応じて、他のグループまたはライセンスを追加します。ライセンスまたはグループを右クリックして「プロパティ」を選択することにより、ライセンスやグループの修正と削除を行うこともできます。

予約ファイルの保存

1. 予約ファイルの定義が終了したら、メニューで以下の項目を選択します。
 ファイルを > 別名で保存する
2. ファイルをアクセスしやすい場所に保存します。このファイルは、次のステップでコピーする必要があります。
3. ライセンス・サーバーが始動時に *ls* 探し ファイルを自動的に見つけ、そのファイルを Windows 上のライセンス・マネージャー・インストール・ディレクトリーにコピーできるようにします。デフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT フォルダーを確認します。その他のオペレーティング・システムの場合は、ファイルをライセンス・マネージャーのインストール・ディレクトリーに直接コピーします。
4. 同じ予約をすべての冗長サーバーに適用する場合は、各サーバーに予約ファイル (*lsreserv*) をコピーします。
5. 操作が終了したら、各ライセンス・マネージャーを再始動します。

ライセンス・マネージャーの開始と停止

ライセンス・マネージャーを開始する方法は、オペレーティングシステムによって異なります。

Windows

Windows マシンの場合、ライセンス・マネージャーはシステム・サービスです。このサービスは、デフォルトで自動的に開始されます。ただし、このサービスを手動で開始する必要がある場合は、以下の手順を実行します。

1. Windows の「コントロールパネル」で「管理ツール」をダブルクリックします。
2. 「サービス」をダブルクリックします。
3. 「サービス」リストで「**Sentinel RMS License Manager for IBM SPSS**」を見つけます。
4. 対象のサービスを右クリックして「開始」または「停止」を選択します。

その他のオペレーティング・システム

その他のオペレーティング・システムの場合、ライセンス・マネージャーはデーモン・サービスです。以下の手順を実行して、サービスを手動で開始してください。また、ライセンス・マネージャーが自動的に起動するように設定することもできます (手順は、次のセクションを参照)。

1. コマンド・プロンプトを使用して、ライセンス・マネージャーがインストールされているディレクトリーを参照します。
2. **開始する場合:** root として、コマンド・プロンプトで `./lserv64 &` と入力し、Enter キーを押します。

3. 停止する場合: root として、コマンド・プロンプトに `./lsrldown64 <hostname>` と入力します。こ
こでの `<hostname>` は、ライセンス・マネージャーが実行されているコンピューターのネットワークの
名前です。次に、Enter キーを押します。

自動的に起動するようにライセンス・マネージャーを構成する

Windows

1. Windows の「コントロールパネル」で「管理ツール」をダブルクリックします。
2. 「サービス」をダブルクリックします。
3. 「サービス」リストで「**Sentinel RMS License Manager for IBM SPSS**」を見つけます。
4. 対象のサービスを右クリックして「プロパティ」を選択します。
5. 「スタートアップの種類」を「自動」に設定します。
6. 「OK」をクリックします。

他のオペレーティング・システム

1. オペレーティング・システムのスタートアップファイルの 1 つに `./lserv64 &` を追加します。

ライセンス・マネージャーとツールのアンインストール

Windows

1. Windows の「スタート」メニューから、次の順に選択します。
「設定」 > 「コントロールパネル」
2. 「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。
3. 「**Sentinel RMS License Manager for IBM SPSS**」を選択し、「削除」をクリックします。
4. ライセンス・マネージャーの削除を確認するプロンプトが出されたら「はい」をクリックします。

他のオペレーティング・システム

1. コマンド・プロンプトを使用して、ライセンス・マネージャーをインストールしたディレクトリーを参
照します。
2. root として、コマンド・プロンプトで `./lsrldown64 <hostname>` と入力して、ライセンス・マネ
ージャーを停止します。ここでの `<hostname>` は、ライセンス・マネージャーが実行されているコンピ
ューターのネットワーク名です。その後、Enter キーを押します。
3. ライセンス・マネージャーがインストールされているディレクトリーを削除します。

ライセンス・マネージャー・アドミニストレーターのアンインストール

1. Windows の「スタート」メニューで、以下の項目を選択します。
「設定」 > 「コントロールパネル」
2. 「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。
3. 「**IBM SPSS License Tools**」を選択して、「削除」をクリックします。
4. Concurrent Licensing Tool の削除を確認するプロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。

デスクトップ・コンピューターのトラブルシューティング

エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターでライセンス・マネージャーが見つからない場合は、
以下の手順を実行してください。

1. `lswhere` (Windows の場合) または `./lswhere64` (macOS の場合) を実行して、ライセンス・マネージャーが稼働しているネットワーク・コンピューターをデスクトップ・コンピューターで検索できることを確認します。詳しくは、20 ページの『`lswhere` の実行』のトピックを参照してください。
2. ライセンス・マネージャー・サービスがネットワーク・コンピューター上で稼働していることを確認します。
3. 該当する `commutelicense.ini` ファイルを確認します。Windows では、このファイルはデスクトップ・コンピューター上の商品インストール・ディレクトリーにあります。 `commutelicense.ini` を開き、`DAEMONHOST` の値が、ライセンス・マネージャーが稼働しているコンピューターの正しい名前または IP アドレスに設定されていることを確認します。冗長サーバーを使用している場合、すべての冗長サーバーを定義する必要があります。各名前は、ティルド (~) 文字で区切る必要があります。例えば、ライセンス・マネージャーのコンピューターが `SERVER1`、`SERVER2`、および `SERVER3` の場合、`DAEMONHOST` は、`SERVER1~SERVER2~SERVER3` に設定します。

lswhere の実行

エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターから `lswhere` (Windows の場合) または `./lswhere64` (macOS と Linux の場合) を実行して、コンカレント・ライセンス・マネージャーがどのコンピューターで稼働しているかを確認できます。

1. コマンド・プロンプトを使用して、現在のディレクトリーから IBMSPSS Amos のインストール・ディレクトリーに移動します。
2. `lswhere` または `./lswhere64` と入力します。

サービスとサポート

IBM 会社 技術サポートに連絡するには、<http://www.ibm.com/support> にアクセスして事象を送信してください。IBM 会社 技術サポートに登録していない場合は、登録する必要があります。

IBM 会社 は、IBM 会社 製品の公開トレーニング・セミナーを定期的に開催しています。オンサイトでトレーニングを受講することもできます。トレーニング・セミナーの詳細については、<http://www.ibm.com/training/spss> にアクセスしてください。

